

令和5年度

勝浦中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

一人一人の子どもを大切にしたいわかる授業づくり
～ 期待して登校 満足して下校 ～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
鎌田 明美	校長 高橋 明 教頭 大野 慎吾 教務主任 谷口 勇
	1年主任 見谷 真希 2年主任 鎌田 明美 3年主任 松田 堯人

校長
高橋 明

【小中連携または中高連携における共通の取組】

読書活動の推進と国語力の向上を目指した図書館との連携

【各校の取組状況の把握について】

教員同士の授業参観を積極的に行い、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習環境を保っている。学習環境として、学力を高めやすい状況にある。学習活動に真面目に取り組む生徒が多く、積極的な態度で学習活動に取り組むことができている。 ●学習に対して粘り強く取り組むことが難しい生徒も一定数いて、基礎・基本の定着に課題がある。	①授業に積極的に取り組み、資質・能力の向上を図ろうと努力する。 ②授業や家庭学習に粘り強く取り組むことで、基礎的・基本的な資質・能力を高める。	①授業のまとめや振り返りの充実を図る。 ②課題の確認や指導を適切にする。 ③課題を解決したり、克服したりすることの難しさを感じる生徒には個別指導を工夫し、達成度を高めていく。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループによる活動で積極的に自分の考えを表現しようとしている生徒が多い。 ●話し手の考えを聞こうとしてはいるが、その考えに対して異なる考えを伝えるまでではない。また、よりわかりやすく伝えることや自分の考えを広げたり、深めたりするところに課題があると考える。	①情報を整理し、自分の考えをもつ。 ②相手にわかりやすく自分の考えを説明したり、相手の考えを十分引き出したりする。	①教材研究において、思考・判断・表現する活動を工夫をする。 ②授業の中でペアやグループによる活動でタブレット端末を効果的に活用する。 ③授業で思考・判断・表現する活動を適切に実施し、考えをまとめ、発表させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して、積極的に取組み、成長したいという想いのある生徒が多い。 ●自分で課題設定をし、主体的に解決しようとする生徒は多くない。	①読書の意義を理解し、読書をする。 ②授業の目標を意識し、意欲的に取り組む。 ③家庭学習は計画を立て、取り組む。	①読書の意義を伝え、学級文庫を活用し、読書活動を図る。 ②授業の目標と展開を説明し、学習の見通しを意識させて取組ませる。 ③英検などを奨励し、意義を伝え、積極的に支援する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

